



宇佐美圭司回顧展 絵画のロゴス

USAMI KEIJI: A RETROSPECTIVE

2016年3月1日 | 火 | — 4月17日 | 日 |



《遺作・^{ズレ}制動・大洪水》2012年 / 油彩、キャンバス / 291.0×291.0cm

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

う さ み け い じ
宇佐美圭司回顧展

2016年3月1日(火)~4月17日(日)

宇佐美圭司は、現代美術を扱うパイオニア的な場であった南画廊で1963(昭和38)年、彗星のごとくデビューして以来、日本を代表する画家として活躍を続けてきた。その制作は、今日の美術の問題を絵画によって明示し、それに回答を試みるものであった。

1940(昭和15)年、大阪府吹田市に生まれ、和歌山市で12歳まで過ごした宇佐美は、画家を志して独学で制作を始め、南画廊での初個展で注目を集めて以後、個展を中心に作品発表を続けた。画面の抽象化を徹底的に押し進めた《還元》シリーズの後、徐々に画面に現れた人間の身体の形は、1965(昭和40)年の『ライフ』誌に掲載されたワッツ暴動の写真から抜き出された4つの人型に集約され、以後の作品の基本的な主題となっていく。

1972(昭和47)年の「第36回ヴェネツィア・ビエンナーレ」では日本代表に選ばれるなど、その作品は高く評価された。また多摩美術大学、武蔵野美術大学、京都市立芸術大学で教鞭を執り、後進の育成にも当たった。著述も活発に行い、1980(昭和55)年の『絵画論』など美術についての論考も多く発表している。

この展覧会は、宇佐美が2012(平成24)年に没してから、関西圏ではその画業を振り返る初の機会となる。



1.



2.



3.



4.



5.

1. 《還元 No. 6》1963年 / 油彩、キャンバス / 135.0×184.8cm
 2. 《水族館の中の水族館 No.2》1967年 / 油彩、キャンバス / 185.0×270.0cm
 3. 《Wave Ring》1980年 / 油彩、キャンバス / 194.8×270.0cm
 4. 《Elevation (高翔)・グリーン》1997年 / 油彩、キャンバス / 259.1×193.9cm
 5. 《山々は難破した船に似て No.2》2001年 / 油彩、キャンバス / 290.9×436.4cm
- 表紙：《遺作・制動・大洪水》2012年 / 油彩、キャンバス / 291.0×291.0cm

※ 掲載用画像については
広報担当にお問合せ下さい。

開催概要

- 会場 和歌山県立近代美術館 2階展示室
会期 2016年3月1日(火)~4月17日(日)
開館時間 9時30分 - 17時(入場は16時30分まで)
休館日 月曜日(ただし3月21日(月)は開館し翌22日(火)休館)
観覧料 一般510(410)円、大学生300(250)円()内は20名以上の団体料金
*高校生以下、65歳以上、障がい者、県内に在学中の外国人留学生は無料
*3月26日(土)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

関連事業

- 講演会
講演会：岡崎乾二郎氏(武蔵野美術大学客員教授)
3月21日(月・祝)午後2時から 近代美術館2階ホールにて
- フロアレクチャー(担当学芸員による展示解説)
3月13日(日)、20日(日・祝)、4月2日(土)、17日(日)
いずれも午後2時より、展示室にて ※申込不要、要観覧券。

【同時開催】

コレクション展 2015/16-冬 特集展示 光について

【会期】開催中 - 3月13日(日)
【会場】1階展示室

コレクション展 2016-春

特集展示 謄写印刷工房から-印刷と美術のはざままで

【会期】3月29日(火) - 5月29日(日)
【会場】1階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村泰彦 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>